



『年中行事日記帳二』

『年中行事日記帳二』は、天保、2年、天保3年、天保4年の日記が収められています。一と同じように日々の暮らし、酒造業、幕府役人、尾州家御鷹場などが描かれています。殊に目を引くのが信仰心の篤さです。勘次郎自身病気がちではあるのですが、妻の病気の記述も多く、遠方の医者に診察してもらっています。それでも今の神奈川、埼玉などを訪ね徒歩で行っていたのかと思うと唯々感心するばかりです。